

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2022/2/4

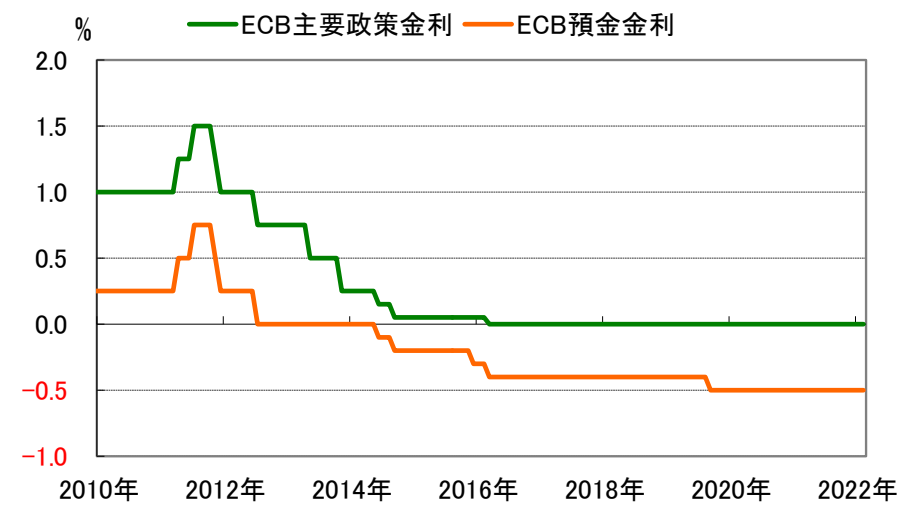
りそなホールディングス 市場企画部

○概況

- ◆ ECB理事会では主要政策金利は据え置きとなった
- ◆ ラガルド総裁は2022年利上げの可能性を明確に否定せず、3月会合で経済情勢を精査していくとした
- ◆ 3月会合に向けて金融政策を巡る思惑で金融市場は振れが出やすいであろう

- ✓ 2月3日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置いた。
- ✓ パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)について、総額(1兆8500億ユーロ)を維持の上、第一四半期は前四半期よりも減額、新規購入については22年3月末で終了するとのスタンスを維持。以降については通常の資産購入プログラムであるAPPを増額するも、年末にかけて残高を漸減させる方向性(事実上のテーパリング)を継続する方針。(前回から変化なし)
- ✓ フォワードガイダンス（将来の金融政策方針）については、「(1)インフレ率が予測期間(現在は21-23年)の終わりよりもかなり前に2%に達し、(2)残りの予測期間は持続的に2%に達すると予想するまで、(3)また基調的なインフレ率が中期的な2%の物価安定と一致するよう十分に進展していると判断するまで、現状ないし現状を下回るレベルで政策金利を維持する」との文言が据え置かれた。
- ✓ ラガルド総裁は記者会見で、ユーロ圏の12月、1月のインフレ率が上振れしており、インフレに関する懸念を全員が共有したとした。12月の会合では、「2022年中に利上げをする公算は小さい」としていたが、今回は言及避け、次回3月の会合で経済情勢、景気や物価について精査するとした。2022年中の利上げに含みを残したと言える。
- ✓ 金融市場ではラガルド総裁が年内の利上げを明確に否定せず、ECBの発表前にイングランド銀行が0.25%利上げ（政策委員9名中4名が0.50%の利上げを主張）実施したこともあり、欧州金利主導で金利が上昇。3月会合に向けて金融政策を巡る思惑で振れは出やすいであろう。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（12月時点）】

	2021年	2022年	2023年	2024年
実質GDP成長率	+5.1	+4.2	+2.9	+1.6
9月時点の見通し	+5.0	+4.6	+2.1	-
HICP(消費者物価)	+2.6	+3.2	+1.8	+1.8
9月時点の見通し	+2.2	+1.7	+1.5	-

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。